

政策評価シート 3-3 の修正案

1 評価結果

(1) 客観指標（詳細は別添「行政活動実績評価シート」参照）

- ・全4指標中、目標達成：1指標、未達成：3指標となった。
 - ・「文化財施設入館者数」は、増加を目標としたが、減少した。
 - ・一方、「博物館の入館者数」は、目標を2.2倍と大きく上回って達成した。
- ⇒市の取組みは、一部で進捗がみられたものの、順調ではなかった。

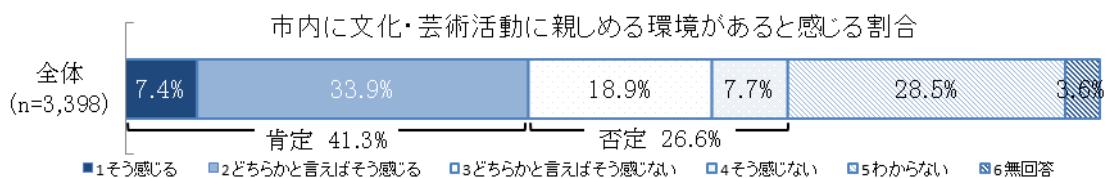
No	指標名	単位	H26末値	H29目標値	H29末値	目標達成状況※
68	文化施設(市民会館・文化センター・文化ホール)利用者数	人	695,100	758,200	716,563	未達成
69	千葉市美術館利用者数	人	217,452	202,400	171,606	未達成
70	文化財施設入館者数	人	23,199	24,400	18,812	未達成
71	博物館の入館者数	人	46,993	58,000	132,738	達成

※目標達成状況 「達成」：目標達成率 100%以上 「概ね達成」：目標達成率 80%以上 100%未満 「未達成」：目標達成率 80%未満
 ※目標達成率 = $(H29\text{末値} - H26\text{末値}) / (H29\text{目標値} - H26\text{末値}) \times 100$

(2) 市民アンケート

ア 全体傾向

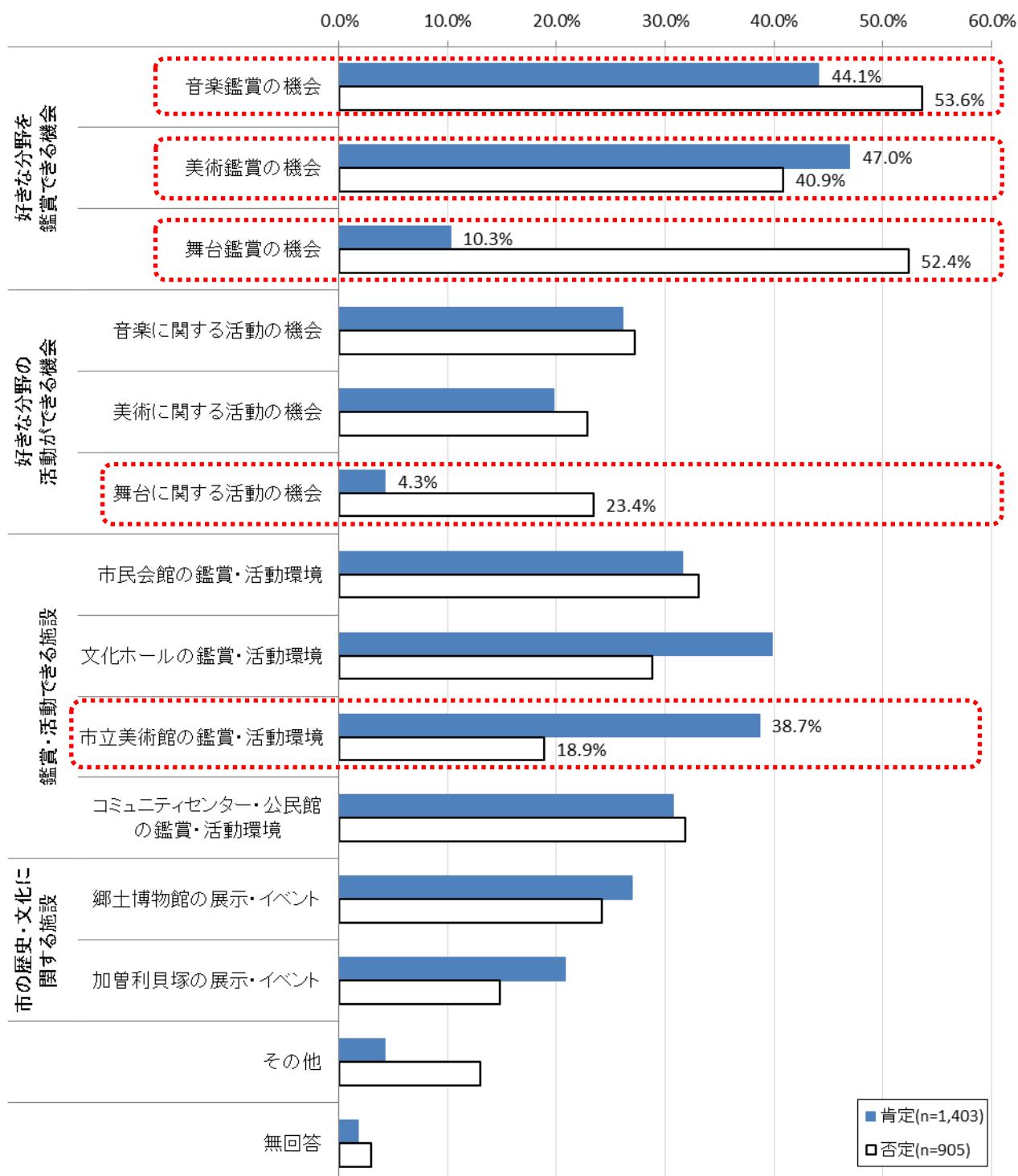
- ・市民の約4割の人が肯定的に評価した。
- ⇒市民からは、ある程度の評価が得られた。



イ 肯定／否定と感じた理由

主な項目

- ①：美術鑑賞の機会、市立美術館の鑑賞・活動環境
 ②：音楽鑑賞の機会、舞台鑑賞の機会、舞台に関する活動の機会



※このグラフは施策の柱の生活実感指標ごとに、肯定／否定と感じた理由を選択した割合を示す（複数回答）。

「肯定」の母数は生活実感指標設問における肯定的回答者、「否定」の母数は同否定的回答者。

（出典）H30 年度千葉市まちづくりアンケート

2 分析・考察

- ・市民アンケートで肯定／否定の選択の理由として挙げられた主な項目について、関連する指標、事業及びその他の状況等を踏まえ、総合的に分析・考察する。

(1) 好きな分野を鑑賞できる機会

ア 音楽鑑賞の機会

イ 美術鑑賞の機会

ウ 舞台鑑賞の機会

エ 市立美術館の鑑賞・活動環境 (関連項目として一括記述)

(ア) 市民アンケート結果

- ・「美術鑑賞の機会」が肯定的に評価された。

(選択割合：肯定 47.0%、否定 40.9%)

なお、「市立美術館の鑑賞・活動環境」は肯定的に評価された。

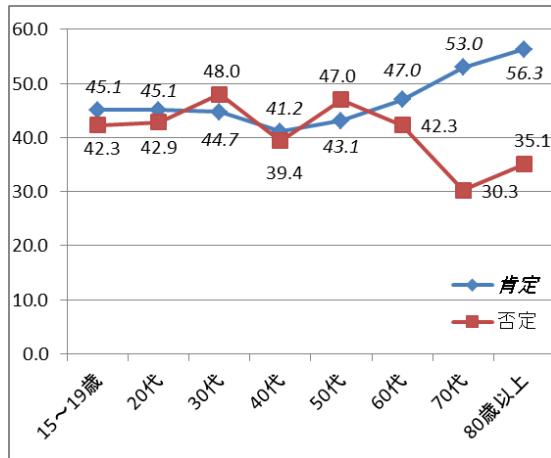
(選択割合：肯定 38.7%、否定 18.9%)

- ・一方、「音楽鑑賞の機会」、「舞台鑑賞の機会」は否定的に評価された。

(選択割合：【音楽鑑賞】否定 53.6%、肯定 44.1% 【舞台鑑賞】否定 52.4%、肯定 10.3%)

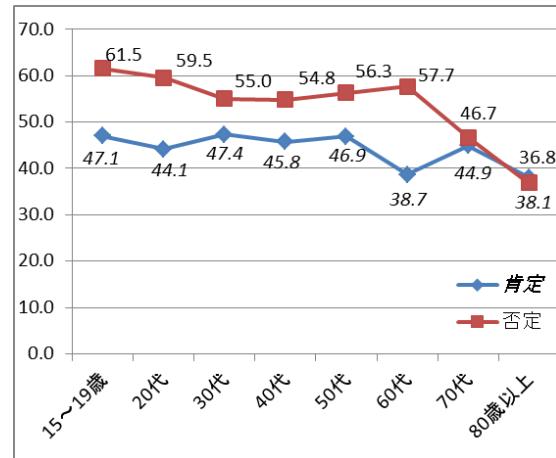
- ・年代別にみると、肯定的評価となった美術鑑賞では、60代以上で肯定的回答の選択割合が高い。一方、否定的評価となった音楽鑑賞では、10～60代の幅広い世代で否定的回答の選択割合が高い(図表1、2)。

【図表1】年代別肯定・否定割合(美術鑑賞)



(出典) H30年度千葉市まちづくりアンケート

【図表2】年代別肯定・否定割合(音楽鑑賞)



(出典) H30年度千葉市まちづくりアンケート

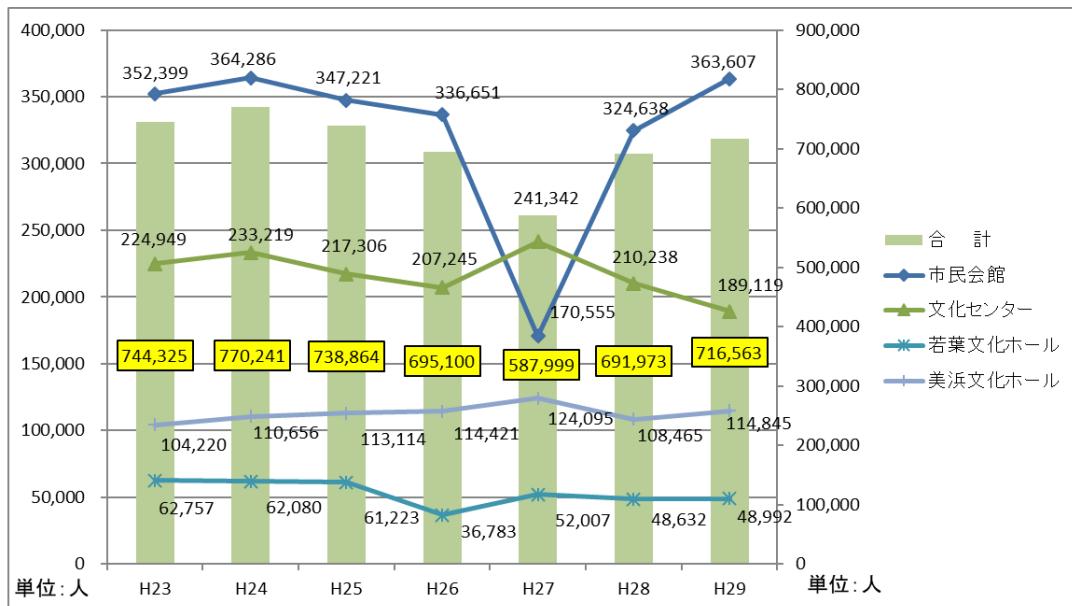
(イ) 関連する指標・事業・その他の状況

① 関連する客観指標

- ・「文化施設(市民会館・文化センター・文化ホール)利用者数」：716,563人(目標：758,200人)【未達成】
全体としては、市民会館の吊天井改修工事に伴う休館の影響によりH27年度に大きく減少し、その後は増加傾向。

H29年度は、全体として対H26年度比+21,463人増としたものの、文化センターの昇降機設備改修工事に伴う休館の影響で前年度から微増に留まり、目標未達成となった(図表3・4)。

【図表3】施設別利用者数（人）の推移



【図表4】施設別休館状況

(出典) 文化振興課調べ

施設名	休館状況	期間
市民会館	吊天井改修工事により、全館休館	H27.10～H28.3
文化センター	昇降機設備改修工事により、文化ホール休館	H29.10～H30.3
若葉文化ホール	空調設備改修により、全館休館	H26.11～H27.3

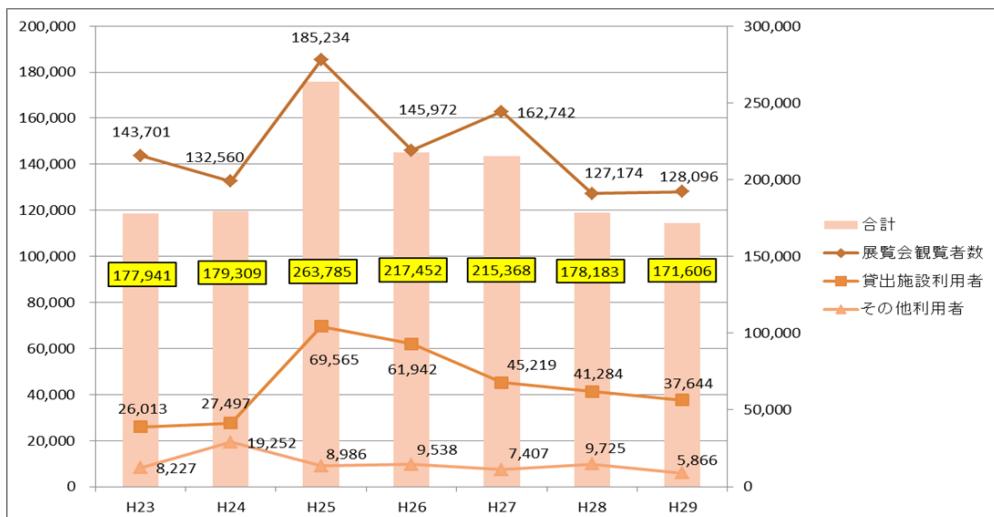
(出典) 文化振興課調べ

・「千葉市美術館入館者数」：171,606人（目標：202,400人）〔未達成〕

全体としては、H25年度に大きく増加し、その後は減少傾向。H25年度は、「仏像半島」など集客力の高い企画展の開催と、県立美術館の耐震改修工事（H25年1月～H26年12月）に伴う貸出諸室の一時的な利用増が重なり、大幅な増加となった。（図表5、6）。

なお、美術館において、小学校授業の一環としての美術鑑賞や親子向けワークショップ等、教育普及に関する活動を実施している。

【図表5】千葉市美術館利用者数の推移



(出典) 文化振興課調べ

※1 貸出施設：市民ギャラリー、講堂、講座室、さや堂ホール

※2 その他利用者：図書室、講座・講演会等、コンサート・ワークショップ、学校プログラム・ワークショップの利用者

【図表6】観覧者数の多かった上位10企画展 (H24～H29)

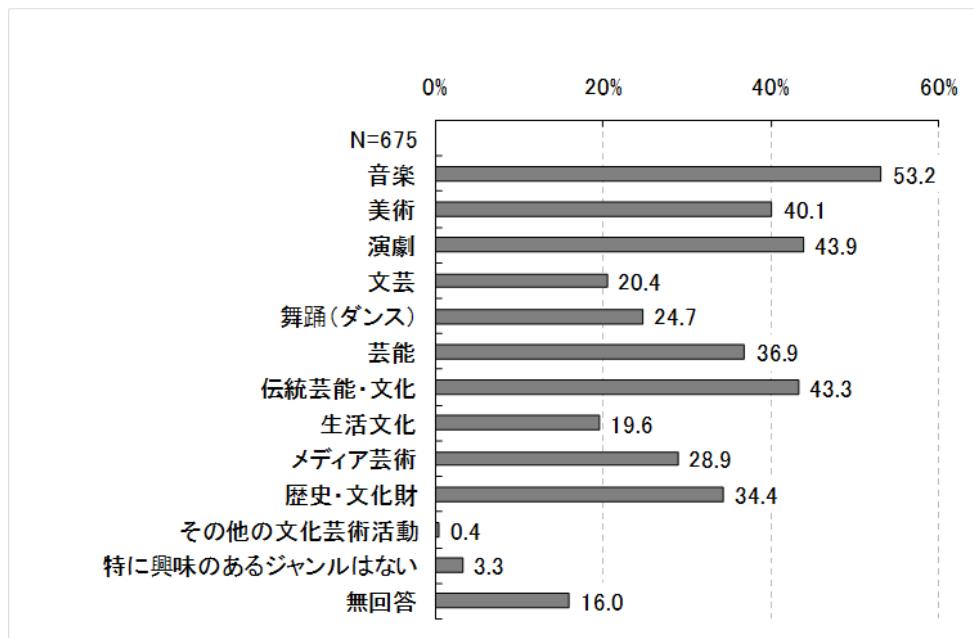
順位	企画展	観覧者数(人)	年度
1	仏像半島一房総の美しき仏たち	37,745	平成25年度
2	川瀬巴水展	27,283	平成25年度
3	ボストン美術館所蔵 鈴木春信展	24,809	平成29年度
4	蕭白ショック！曾我蕭白と京の画家たち	19,945	平成24年度
5	開館20周年記念 ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画－「マネジメントの父」が愛した日本の美－	19,372	平成27年度
6	開館20周年記念 没後20年記念 ルーシー・リー展	18,768	平成27年度
7	赤瀬川原平の芸術原論 1960年代から現在まで	18,127	平成26年度
8	彫刻家・高村光太郎展	16,195	平成25年度
9	生誕140年 吉田博展	15,971	平成28年度
10	第46回千葉市民美術展覧会	15,860	平成26年度

(出典) 文化振興課調べ

③その他の状況

- 本市「資産の総合評価 (H25 年度)」によれば、文化ホールの利用傾向について、分野では全体として音楽が最も多く、舞台芸術もそれなりの利用割合があるものの、コンサートなど有料イベントの比率は多くても 20%程度と少なく、発表会やコンクール、研修会などの関係者利用が利用の多くを占めている。
- 市有文化ホールは、京葉銀行文化プラザ音楽ホール (R元年8月現在、施設売却に伴い閉鎖中)、美浜文化ホール (うち音楽ホール) の2館が音楽専用ホールとなっており、それ以外は音楽・舞台兼用ホールである。
- 音楽鑑賞については、ベイサイドジャズ千葉やワンコインコンサートなどの取組みに加え、「JAPAN JAM」や幕張メッセで行われる音楽イベントなど、ホール利用にとどまらない様々な音楽鑑賞の機会を提供している。
- 舞台芸術については、小中学生や高校生を対象としたワークショップの実施や、音響・照明など舞台芸術に必要な人材を育成するセミナーの開催などを行っている。
- 別の市民意識調査では、「今後鑑賞してみたいと思うもの」として「音楽 (53.2%)」が最も多く、次いで「演劇 (43.9%)」、「伝統芸能・文化 (43.3%)」となっている。その内訳をみると、音楽はクラシック、演劇はミュージカル、伝統芸能・文化は歌舞伎がそれぞれトップであった (図表7)。
- 文化芸術活動を充実させる事業として、千葉市美術館における「高校生美術体験プログラム」や千葉市文化センターにおける「創作市民ミュージカル」「舞台芸術創造ワークショップ」がある。

【図表7】今後鑑賞してみたいと思うもの



(出典)千葉市文化芸術振興計画策定に関する市民意識調査(H27年3月)

(ウ) 考察

- ・「美術鑑賞の機会」については、魅力的な企画展の開催や教育普及に関する活動が肯定的に評価された一方、否定的回答も4割を超えており、市民の実感が分かれた。否定的回答の具体的理由はアンケートでは把握できないものの、「市立美術館の鑑賞・活動機会」について特に60代以上で肯定的に評価されていることを踏まえると、浮世絵や日本の近現代美術を主軸とする市立美術館（・県立美術館）でカバーしていないジャンルを市内で鑑賞できないことに対する不満や、様々な美術館が立地する都内での鑑賞環境との比較による不満などが可能性として考えられる。
- ・「音楽鑑賞の機会」、「舞台鑑賞の機会」については、否定的に評価された。否定的回答の具体的な理由はアンケートでは把握できないものの、幅広い世代で否定的に評価されていること、また文化ホールの有料イベントが少なく、多くを関係者利用が占めている状況を踏まえると、鑑賞機会の頻度について否定的に捉えられている可能性がある。
- ・加えて、音楽鑑賞の機会提供としてホール以外でのイベントも多く開催していることや、今後鑑賞したいと市民が思う「ミュージカル」や「歌舞伎」を上演可能なホールが限られることが、舞台より音楽の肯定的回答の割合が高かった一因となっている可能性がある。
- ・鑑賞の機会については、市民のニーズを見極めながら提供していく必要がある。また、市民が好きな分野の活動ができる機会については、市民が参加・体験できる講座等や、その活動を支援する市の取り組みを拡充することが必要。

(2) 好きな分野の活動ができる施設

ア 舞台に関する活動の機会

(ア) 市民アンケート結果

- 否定的に評価された（選択割合：否定 23.4%、肯定 4.3%）
- 音楽、美術に関する活動機会についても、否定的に評価された。
なお、音楽・美術は、肯定・否定が僅差であるのに対し、舞台は、否定が音楽・美術と同程度である一方、肯定は 4.3% と極端に少ない結果となった。

(イ) 関連する指標・事業・その他の状況

①関連する客観指標

設定なし

②関連する事業

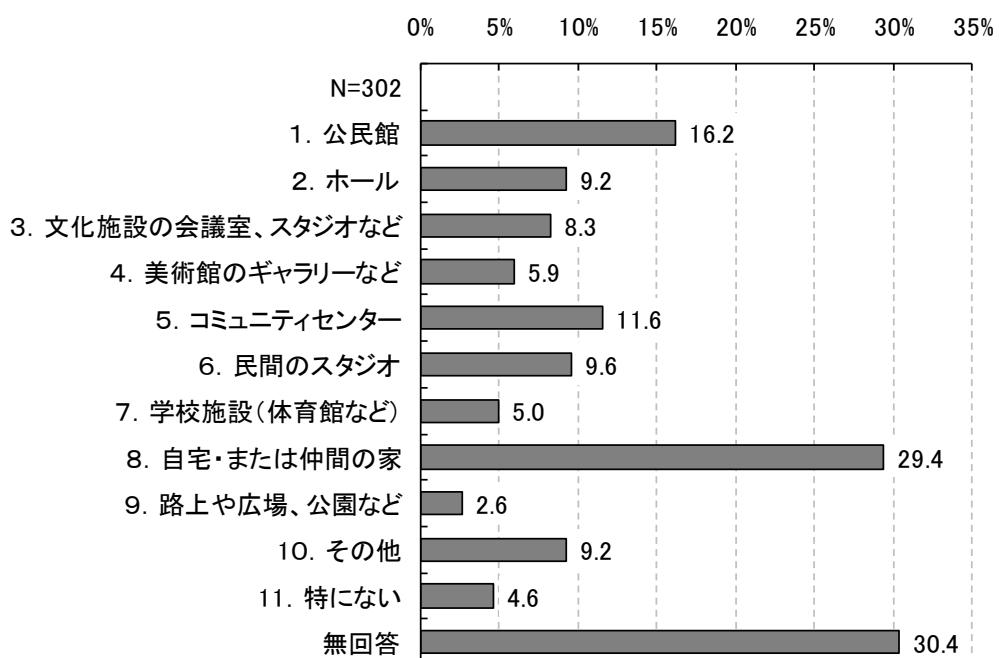
(計画外事業)

- 公民館、コミュニティセンター、文化ホール等の諸室貸出しによる活動場所の提供

③その他の状況

- 主な活動場所について、別の市民意識調査では、「自宅・または仲間の家（29.4%）」が最も多く、次いで「公民館（16.2%）」「コミュニティセンター（11.6%）」となっている（図表8）。
- 一方、文化・芸術団体に対する調査では、主な活動場所は「公民館」「コミュニティセンター」の順に高い。また、活動を行う上での課題として「稽古場・練習場・創作活動の場が少ない（40.0%）」が最も多い（図表9）。なお、H29 の公民館の稼働率（関連客観指標 No. 61）は 46.8% であり、H26 末値比で 1.6 ポイント上昇した。

【図表8】活動を行っている主な場所



(出典) 千葉市文化芸術振興計画策定に関する市民意識調査(H27年3月)

【図表9】文化芸術活動を行う上での課題

選択肢	件数	割合
1. ホールやギャラリーなどの発表・展示の会場が少ない	3	15.0
2. 発表や展示をする会場施設の使い勝手が悪い	3	15.0
3. 地域との交流が少ない	1	5.0
4. 施設はあるが、設備が足りない	4	20.0
5. 他の団体との交流が少ない	1	5.0
6. 稽古場・練習場・創作活動の場が少ない	8	40.0
7. 文化活動の広報の場が少ない	3	15.0
8. 文化活動を行うひとつくりが不足している	5	25.0
9. 発表・展示の会場費用が高い	5	25.0
10. 活動資金が少ない	5	25.0
11. その他	6	30.0
合計	20	

(出典)千葉市文化芸術振興計画策定に関する市民意識調査(H27年3月)

(ウ) 考察

- ・好きな分野の活動ができる施設について、市では公民館をはじめとする公共施設の貸出しを中心に市民の活動場所を提供しているところであるが、別の市民意識調査によれば、公共施設は中心的な活動場所である一方、団体活動の場が少ないことが課題として指摘されており、曜日・時間帯等による利用集中などを背景とした活動場所の不足感があるものと考えられる。
- ・そのようなことが、音楽・美術・舞台ともに否定的に評価された背景として考えられる。
- ・なお、舞台活動について特に肯定的回答割合が低かった理由はアンケートでは把握できないものの、活動している、あるいは活動に関心を持つ母集団の差が影響を与えた可能性がある。
- ・活動している市民、団体のニーズを把握し、施設の更新・改修のタイミングで需要の高い諸室の増設（需要の低い諸室の廃止）を図るなど、柔軟な対応による活動場所の提供が必要。